

事務事業 No./名称	■サービス部門 こども-15 児童福祉運営事業 □支援部門		
主管課	こども相談課	関連課	こどもみらい部、健康福祉部、教育委員会 文化人権推進課 等
分野名	健康福祉		
目標 (目標値)	地域ネットワークとこどもと家庭の相談室が連携し、虐待未然防止に努める。子育て家庭に対し、育児相談の窓口としてこどもと家庭の相談室の周知を図る。		

人口等のデータ	データ区分	25年度	24年度	23年度	備考	
	人口	177,895人	177,224人	177,204人		・各年4月1日 (住民基本台帳)
	世帯数	80,295世帯	79,669世帯	79,217世帯		
	事業の対象者数					
事業の対価						
運営資源状況	決算値(千円)	11,595	12,024	11,684		
	(国・県)	3,659	4,648	7,446		
	(負担金等)					
	(一般財源)	7,936	7,376	4,238		
	人員配置数	2.0人	2.0人	2.0人		
	人件費(千円)	15,561	16,072	17,284		
	協働のパートナー	民間児童福祉施設	民間児童福祉施設	民間児童福祉施設		
事務事業 運営経費	総事業費(千円)	27,156	28,096	28,968		
	市民1人当りの経費(円)	153	159	163		
	対象者1人当りの経費(円)					

ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名⇒										

指標	評価	年度	22年度	23年度	24年度	25年度	最終年度(27年度)
新規相談件数	△	目標値	350	400	400	400	400
		実績値	458	407	471	386	
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退							

中事業に含まれる小事業の方向性(⇒個別事業の概要は裏面) (千円)

H25小事業名	H25決算値	H26小事業名	H26予算額	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止			
児童福祉運営事業	11,535	児童福祉運営事業の一部	12,488	今後の方向性	B	理由・手法	児童虐待の未然防止を図るため、こどもと家庭の相談室の相談体制の充実や児童虐待の周知啓発等を継続的に行っていく必要がある。死別によるひとり親家庭に対して遺児福祉基金を活用して適切な支援を行っていくため。
遺児福祉基金積立金	60			今後の方向性		理由・手法	
				今後の方向性		理由・手法	
				今後の方向性		理由・手法	
				今後の方向性		理由・手法	

中事業の評価(事務事業の課題、取組状況、今後の方向性)

H25年度の課題	①関係機関職員の連携強化、児童虐待の早期発見、通告対応の強化、②こどもと家庭の相談室の相談体制の充実、③子育てにストレスを抱えている保護者を支援する講座の継続的な開催										
課題解決のための取組	①要保護児童対策地域協議会でプロジェクトチームを立ち上げ、保育園での要保護児童対応マニュアルを作成した。②虐待未然防止のための取組みが適切になされるよう、研修受講等により配置職員力量アップを図った。③安心こども交付金事業費補助金を活用し、子育てにストレスを抱えている保護者を支援する講座を実施した。					取組の結果	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 未解決				
未解決の課題	①関係機関の全職員や一般市民に対する要保護児童対応のさらなる周知・啓発、②虐待未然防止を目的とした事業の充実										
中事業の評価	適切=○要改善=△(2面「評価の視点」を参照)		→	①効率性	○	②妥当性	○	③有効性	○	④公平性	○
今後の方向性 (課題解決に向けた取組・H26予算への反映)	こどもと家庭の相談室に寄せられた相談等に対する適切に対応することにより、児童虐待の予防及び早期発見に努めるとともに、子育てにストレスを抱えている保護者を支援する講座等を継続的に実施することにより、児童虐待が起これにくい環境を整備していく。							A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止 ※□事業完了			

評価者名 こども相談課長 平井 あかね

(2面) 小事業・個別事業の評価

評価のポイント

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

(単位:千円)

小事業名	事業概要				【小事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△				
					①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	
児童福祉運営事業	こどもと家庭の相談室の運営を通して児童虐待の未然防止と早期発見、対応を行う。				○	○	○	○	
	主な個別事業	ザイムスコード	個別事業名	25年度当初予算	25年度決算値	【個別事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△			
		786	こどもと家庭の相談室相談員報酬	9,900	9,900	○	○	○	○
		786	要保護児童相談助言者謝礼	80	80	○	○	○	○
		60・786	ママのトークタイムわかば、CSP、PPP等報償費	970	737	○	○	○	○
		60・786	こどもと家庭の相談室相談員費用弁償	680	485	○	○	○	○
		60	消耗品費	174	103	○	○	○	○
786	養育支援訪問事業補償保険料	30	30	○	○	○	○		
786	養育支援訪問事業委託料	515	200	○	○	○	○		
※□	事業完了								
遺児福祉基金積立金	遺児の福祉の増進を図るため、市へ寄附された寄付金を遺児福祉基金に積み立てる。				○	○	○	○	
	主な個別事業	ザイムスコード	個別事業名	25年度当初予算	25年度決算値	【個別事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△			
		63	遺児福祉基金積立金	10	60	○	○	○	○
※□	事業完了								
[空]	事業概要				【小事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△				
	主な個別事業	ザイムスコード	個別事業名	25年度当初予算	25年度決算値	【個別事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△			
※□	事業完了								
[空]	事業概要				【小事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△				
	主な個別事業	ザイムスコード	個別事業名	25年度当初予算	25年度決算値	【個別事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△			
※□	事業完了								
[空]	事業概要				【小事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△				
	主な個別事業	ザイムスコード	個別事業名	25年度当初予算	25年度決算値	【個別事業の評価】 評価⇒適切=○、要改善=△			
※□	事業完了								